

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	5

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力(リーガル・マインド)を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント(人間性、活動実績、将来への夢・希望など)が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

本問のテーマは、成年年齢の満 18 歳への引き下げについてである。

かねてからニュースでも大きく報道されていた改正が、来る 4 月 1 日、いよいよ施行される。本改正については、若者の積極的な社会参加を促すことによって、社会を活力のあるものにすることができるとする反面、成年年齢が引き下げられることによって、若者が未成年者としての保護をより早く失うことになるといった弊害も指摘されていたが、いよいよそれらの具体的問題と向き合う時が来たといえる。

本問は、成年年齢引き下げの趣旨、賛成意見・反対意見について、日頃のニュースを通じて把握しているかを問うとともに、それを踏まえうえて、自分の意見を述べることができるかを問うことを意図している。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

本改正は、公職選挙法改正によって選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたこと、また、憲法改正のための国民投票の投票権年齢が 18 歳と定められたことを踏まえた改正である。その趣旨としては、国政の重要な判断に 18 歳の若者にも参加してもらうことにした以上は、日常の私的生活においても 18 歳を成年として扱うのが妥当であること、また、世界的に見ても、18 歳を成年とするのが主流であることが挙げられている。

本改正に賛成する意見としては、若者の積極的な社会参加を促すことによって、社会を活力のあるものにする事ができるということなどが挙げられている。すなわち、民法では、未成年者が法律行為を行うためには親権者の同意が必要であるとされているが、成年に達すれば、親権者の同意がなくても自由に法律行為を行うことができるようになる。したがって、どのような契約を結ぶかなどについて、若者がより早く自分の意思で決められるようになり、結果として社会が活力に富んだものになるとする。

本改正に反対する意見としては、成年年齢が引き下げられることによって、それまで未成年者として保護されていた若者が保護されなくなり、悪質な事業者による契約被害が増加する恐れがあることなどが挙げられている。すなわち、民法では、未成年者が親権者の同意を得ずに行った法律行為は取り消すことができるとして、未成年者の保護を図っているが、成年年齢が引き下げられることによって、若者がより早く未成年者としての保護を失うことになるということが危惧されている。

以上のような、改正の趣旨、賛成意見・反対意見について説明したうえで、自分の意見を述べてもらいたい。その際には、成年年齢の引き下げによる弊害の改善策(たとえば、こういう制度があれば契約被害を減らすことができる、など)も盛り込むことができれば望ましい。

2022年度 総合型選抜試験(B日程) 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	5

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今回の問題は、アドミッション・ポリシーの1, 2, 5を見ることを目的としています。

まず、アドミッション・ポリシー1にあるように、「地域社会の出来事」に「強い関心」を持っているかどうか、また「地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲」を示すことができるかどうか問われます。ここでは、自分の地元と考える市町村の課題や最近のニュースなどについてどれだけ理解し、記述することができるか、また課題の解決のためにどれだけ真剣に考えているかを問うています。

また、アドミッション・ポリシー2にあるように、公約を三つあげることで、「地域社会の課題を

発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考える」力を見ようとしています。

さらに、アドミッション・ポリシー5にあるように、問題についての読解力、小論文を書く上での文章力、また漢字や熟語の知識を見ようとしています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価にあたっては、最低限の条件として、公約を三つあげていること、また地名や課題を正確に書くことができているかを見ています。

日々、新聞を読んだりして、地域の課題に関心を持つようにしましょう。

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	8

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

今回の問題では経済学科のアドミッションポリシーに基づき、地域や社会の諸問題に関心があり、論理的かつ主体的に考察できるかどうかを測ることを目的としている。復帰 50 年たった沖縄県は様々な問題を抱えつつ発展してきた。沖縄県が抱える諸問題について日頃から関心を持ち、多面的な視点から分析できる能力、およびそれを論理的、客観的に表現できる力を見る内容となっている。また、どのようにしたら問題を解決できるのか、主体的に考えることができるのかを問う問題でもある。

4. その他特記事項 (評価のポイント・アドバイスなど)

採点においては、沖縄の歴史や社会経済に対する知識、洞察力の高さを評価した。また、論理的な構成力、語彙力や文章力も評価のポイントである。普段から、沖縄県、日本、そして世界で何が起きているかに関心を持つようにすること。また、日常的に新聞、雑誌や本を読むことを意識すること。そのことによって、物事に対する知識や理解が深まり、今起きていることに対する関心も高まる。

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 経済学部 地域環境政策学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
22	15

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。

そこで、本学科では、次の 1～4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。それらは地域環境政策学科のアドミッションポリシー 1～4 に掲げた項目を具現化する点からも大いに関係する。それらの点に鑑み、SDGs に関心をもってもらい、地域環境政策学科学生の調査研究あるいは各個人の社会生活を通じて実践に生かせることを願って小論文のテーマとして出題した。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし

2022年度 総合型選抜試験(B日程) 産業情報学部 企業システム学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	11

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の5項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかみることにある。今回は、企業における人材について、専門性の高い技能と、コミュニケーション能力とを比較して、どちらが必要とされるのかをあえて問うた。もちろん、どちらも正解であり、いずれの技能・能力も、特に

これからの時代で必要とされる。このシンプルな問いを通じて、現代社会におけるビジネスや働き方の課題を、公民科で学んだ内容も踏まえてどれだけ理解しているのか、そして課題解決に向けて、どこまで深く思考できるのかをみようとした。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

2022年度 総合型選抜試験(B日程) 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
28	13

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

小論文試験は、以下の出題意図に基づいている。

情報技術およびビジネス全般、地域社会について関心を持ち、基本的な知識を有しているか。

出題された設問に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できるか。

大学入学後に学ぶ知識を、自らの将来設計や社会的課題解決に活かそうとする意欲を有しているか。

今回の出題では、第5世代移動通信システム(5th Generation;5G)をトピックとして取り上げ、日常スマートフォンを利用する上で、この技術を身近な問題として捉え、沖縄県の基盤産業である観光産業において、この5Gを利用することによりどのような利点が生まれるかなどを自分で考え、自分の言葉で説明できるか等を確認している。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

産業情報学科では、「情報」「経済・ビジネス」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、かつ学ぶ意欲のある人物を求めています。今回の小論文試験では、出題の意図 ~ に加えて、論理展開に無理はないか、語句の用法に誤りはないか、指定された文字数でまとめているかを評価しました。

新聞などから最新の情報を得る習慣を身につけ、国際社会、日常生活、情報技術等の課題に加えて、新たな取り組みと活用について関心を持つようにして下さい。また、自分はどう考え、どう行動するか、どのようにすれば効果的に実現できるか、できることは他にもあるのでは、他にも活用できるのでは、といった視点を持つことも大切です。さらに、小論文試験対策としては、時間的な制約と文字数の指定を踏まえ、指定時間内で書く練習をすることもお勧めします。

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	5

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

総合型選抜(B 日程)において、日本文化学科ではアドミッション・ポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力を測るための論述式の試験問題を出題しています。論述のテーマは、「日本文化」「琉球文化」「多文化間コミュニケーション」の3つの専門領域に関わるものです。

今年度は日本文化や多文化間コミュニケーション分野に関わる問題を出題しました。問1は要約問題、問2は意見文問題となっています。問1では適切に情報をインプットしそれをまとめて伝える力、問2では読んだ文章の内容についてよく考え、その考えを適切に文章で伝える力を測っています。

大学で学ぶ上では、このように思考力・判断力・表現力を駆使して論理的な文章を書くことが求められます。問1と問2で、日本文化学科の専門領域に関わるテーマの中でその力が発揮できるかどうか問われています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

要約問題については、テーマの提示 展開 結論、という流れをつかむことが重要で、具体例などは省く必要があります。具体的には以下の3点が含まれていれば高評価を与えています。

- 1) 歴史的に日本語が“敬して避ける”ための言葉を発達させる一方で、“親しく交わる”ための言葉を発達させてこなかったこと。
- 2) しかし、親しい関係の仲や親しくなる過程では、“親しく交わる”ための言葉が必要なこと。
- 3) 親疎の関係がベースになる現代社会において、親しさのコミュニケーションのための言葉や表現が不足し、そのため人々が息苦しく感じていること。

意見文問題については、日本文化および多文化間コミュニケーション分野についての関心・知識を持つ受験生ほど、より深い考察ができる問題になっています。以下の3点などを含めて論じられると、評価の高い意見文になります。

- a. 「対人関係の距離を大きくするタイプのコミュニケーション」「対人関係の距離を小さくするタイプのコミュニケーション」どちらを重視するのか、その理由や根拠(両方でも可)
- b. 生活の中での自分のコミュニケーション上の課題や、今後のコミュニケーション教育への提言
- c. 他の言語や文化と、日本語や日本文化の中でのコミュニケーションの比較

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 英米言語文化学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
8	6

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人 (総合型選抜: 英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人)
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、笑いがもたらす健康効果とメリットについて述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項 (評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
1	1

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- . 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- . 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- . 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、前述の社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの「社会福祉の専門家としての資質がある」および、「社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有する」かどうかを評価することです。

今回テーマとした「ヤングケアラー」について、受験生がどの程度関心を持ち、自らの意見を

整理して論述することができるかを評価します。特に、児童福祉の問題を個別の問題としてのみ捉えるのではなく、社会問題・生活問題等と結び付けて考える必要が備わっているかどうかを評価します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

(1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の3点が評価のポイントとなっています。

「ヤングケアラー」について、どれくらいの知識や関心を持っているか。

このテーマの背景にある貧困や介護の問題について、どれくらいの知識や関心を持っているか。

自分の知っていること、自分の経験したこと、自分の考え、自分ができていることを関連付けて、自分の意見として論述する能力があるか。

(2) アドバイス

日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心を持ち、それに関連する自分の経験を意識的に振り返ったり、当事者としての視点(自分だったらどうするか、自分に何ができるか)で考えたり、意識して気づき考えるという作業を習慣にしましょう。同時に、振り返ったこと、考えたことを自分の言葉で身近な人に説明したり、意見を交換したり、文章化するなどの作業を積極的に行うと良いでしょう。

2022 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	13

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人のつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの1.にある「人間の「こころと行動」および「人と人のつながり」」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持っている人物かどうかを判断することです。社会生活に関心を持ち、起きている事象の中で人間がどのような心理状態になるのか、その状態を解消または対処する方法について事実と照らし合わせながら考えることができているか、を評価しています。今回とりあげた事象は、COVID-19 の影響によるリモートワークやリモート授業という状況で、ひとはどのような心理状態になるのか推測し、その心理状態を解消または対処する方法は何かを考え、具体例を示し論述 (筋道を立て、理由と論拠を示して述べる) できているかを評価しています。

4. その他特記事項 (評価のポイント・アドバイスなど)

評価のポイントは、社会で起きていることに関心を向け、客観的な情報や事実をおさえているか、を踏まえ、心理状態を推測し、自分なりの考えを導き出し、具体例を示しながら論理的に述べることができるか、の2点である。と の評価のポイントを高めるために、身近な出来事や社会で起きていることに対して感じたことや考えたこと、自分の体験を振り返って気づいたその時の気持や考えなど、について言語化する (言葉に表す) 練習を継続するとよい。